



# ESD **の手引き**

SDGs スタートブック  
を活用した指導実践資料

## もくじ

- 01 巻頭言：ESDとSDGs  
(全国小中学校環境教育研究会顧問・棚橋乾先生)
- 02 SDGsスタートブックの使い方
- 04 課題の見つけ方
- 06 ESDの単元計画
- 08 ESDの年間指導計画としてのESDカレンダーの作成
- 10 ESDにおける教育目標の設定と小・中学校の総合的な学習の時間での学習評価の方法 (花園大学・木村裕先生)
- 12 小学校での活用事例  
(千葉県八千代市立大和田南小学校)
- 14 授業のここでSDGs！ (小学校)
- 16 中学校での活用事例  
(広島県呉市立横路中学校)
- 18 授業のここでSDGs！ (中学校)
- 20 SDGs注目校！  
①鹿児島県立屋久島高等学校
- 21 SDGs注目校！  
②東京都大田区立御園中学校 分教室 学びの多様化学校 みらい学園中等部
- 22 ESDお悩み相談室
- 24 関連サイトのご紹介

# ESD (持続可能な開発のための教育) Education for Sustainable Development とSDGs

【著者プロフィール】

棚橋 乾 先生

全国小中学校環境教育研究会顧問  
多摩市教育委員会 ESD 推進アドバイザー  
SDGs スタートブック /  
指導者用資料 監修者



SDGsスタートブックをご活用いただき、ありがとうございます。本手引きは、SDGsの学びの全体像や指導のポイントを解説し、スタートブックをよりよく活用していただくために編集したものです。

持続可能な開発のための目標であるSDGsに関わる教育は、持続可能な開発のための教育「ESD」と呼ばれます。SDGs教育やESD教育とは言わずに、単にESDと言います。「開発」という言葉が気になる方もいらっしゃるかもしれませんが、Developmentには「発展」という意味もあるので、発展と考えていただければ、違和感はないかと思います。

では、ESDはどのような流れで生まれたのでしょうか。1992年の国連環境開発会議（リオ・サミット）に象徴されるように、1990年代は、国際会議で環境問題や環境教育が盛んに議論されていました。そのような中、2002年のヨハネスブルグ・サミットで、日本政府が一連の教育をESDと命名することを提案し、その年の国連総会で承認されました。そして、2005年から「国連ESDの10年」の活動を始め、2014年に日本で最終報告会を行いました。

2012年には、国立教育政策研究所から「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究」の最終報告書が出され、当時は多くの学校が参考にして、実践に活かしていました。（報告書は右の二次元コードからもアクセスすることができます。）



2015年に、国連はSDGsを総会で承認し、環境、社会と経済を含めて全加盟国で取り組むことになり、ESDはSDGsの目標4（質の高い教育をみんなに）の具体的な目標（ターゲット）として示されることになりました。ユネスコは、目標4は、すべての他の目標を支えていると述べています。このように、持続可能な社会づくりに「教育」が果たす役割は大きいのです。

SDGsを教育面で主導するユネスコは、2017年に「持続可能な開発目標のための教育—学習目標—」という冊子を発行しています。この中にはESDの活動例が書かれています。日本語版がWeb上にありますので、参考にしてください。

(右の二次元コードからもアクセスすることができます。)



文科省ではESDを「持続可能な社会づくりの担い手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育」と示しています。さらに、現行の学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」と示されているのもESDの流れです。

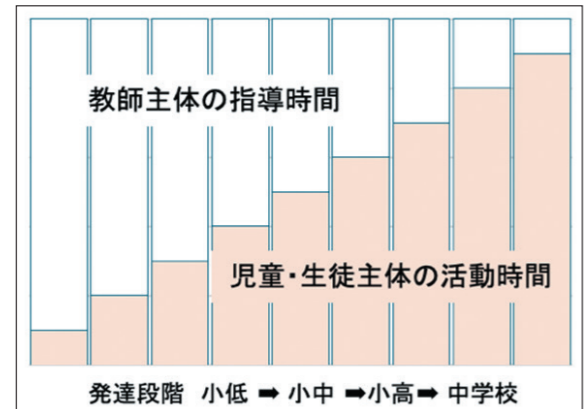
ESDの取り組みは、児童・生徒が自ら課題を設定し、計画し行動しますので、探究学習の流れを活用できる総合的な学習の時間に実践することが多いです。世界を見渡すと、総合的な学習の時間のようなカリキュラムがある国ばかりではありません。日本の教育の利点を活かしたいところです。

SDGsを学び、行動するESDは、自然や社会環境が大きく変化する今の世界に求められる教育です。本手引きの内容をご理解いただき、充実したESDを実践されることを期待いたします。

# SDGs スタートブックの使い方

ESDは、探究学習の流れを活用して、課題設定や調査、まとめをすることが多いのですが、通常の探究学習に加えて、探究して分かったことを社会活動などで実践するところに特徴があります。課題実践や社会実装などと呼ばれますが、実践を通して社会との関わりを持たせ、課題をより自分ごとにするのです。

探究学習やESDには教科指導とは異なった課題があります。児童・生徒が主体的に課題を自己決定し、計画し、活動するため、とても時間がかかりやすいので、十分な時間と活動する場を用意する必要があります。児童・生徒主体の活動時間は、下図のように発達段階に合わせて増やしていきます。



寺崎千秋「感動ドラマを創る子どもたち」(教育出版)をもとに筆者が作成。

次期学習指導要領では、授業時間の工夫によって、総合的な学習の時間等の時数を増やすなどの各学校の取り組みが推奨されると言われています。また、社会での活動など、体験や経験を重視することも進めるようです。これらはESD実践にとって追い風と言えるでしょう。

また、探究学習やESDは、児童・生徒が各自の興味・関心に合ったテーマで活動しますが、発達段階を考えると、小・中学生が各自の興味・関心にあったテーマを見つけ、活動することは簡単ではありません。活動は、大きく分けて以下の3段階が考えられ、スタートブックはどの段階でも活用することができます。

## ① プレ探究(探究基礎)

地域や社会の課題 (SDGs など) にはどのようなも

のがあるかを学ぶとともに、課題の見つけ方、資料の探し方、インタビューの仕方、プレゼン資料の作り方など、探究学習を進める上で必要になる基礎的な知識やスキルを学びます。

## ② テーマ探究(課題探究)

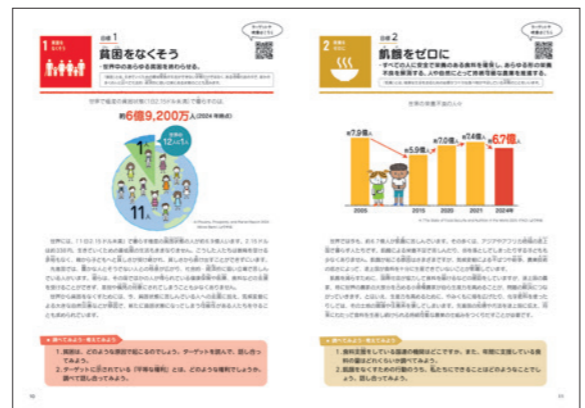
SDGs 探究、地域探究等、探究課題を大まかに限定して探究学習に取り組みます。テーマに関連性があるので、学年や学級でまとまった活動にしやすいです。

## ③ マイ探究(自由探究)

個人やグループで課題や計画などに取り組みます。多様な課題があり、児童・生徒の発想が活かされます。

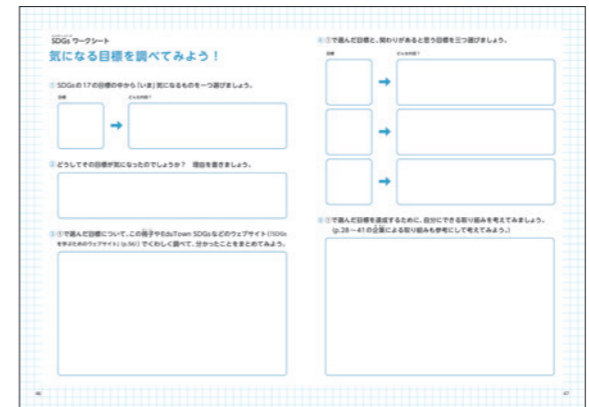
## 〈プレ探究でのスタートブックの活用〉

- 最初に、SDGsとはどのようなものなのか、正しい知識を身につける必要があります。SDGsの成り立ちを解説したp.6-7と、経済・社会・環境の3つの構造とSDGsとの関わりを示したp.8を子どもたちと一緒に確認し、SDGsの全体像を理解させましょう。
- p.10から、SDGsが掲げる17の目標それぞれについて解説があります。まずは、目標を1つ選び、選んだ目標の解説を読みましょう。さらに、各ページ右上の二次元コードをタブレット等で読み込んで、より具体的な目標(ターゲット)や目標の解説映像を、子どもたちと確認しましょう。



p.10-11 目標解説ページ

- 各ページ下部の「調べてみよう・考えてみよう」に取り組みましょう。学級で同じ目標について調べると、内容だけでなく、子どもたち一人ひとりがどのような見方や調べ方をしているか確認できます。
- 調べた目標について学級で話し合い、発表を行った後、新たに分かったことや感想を書かせましょう。p.46-49のワークシートが活用できます。
- p.28-41までの企業の取り組みや、Webサイト「EduTown SDGs」にアクセスして、より詳しい目標の解説記事や映像も活用しながら、学びを深めていきましょう。



p.46-47 ワークシート

## 〈テーマ探究でのスタートブックの活用〉

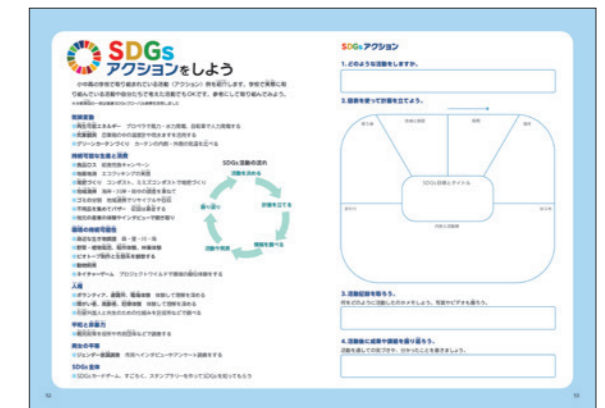
- 上記のプレ探究における活用の(2)(3)(4)の手順で、各目標についてグループで調べて話し合い、学級で発表を行った後、感想を書かせましょう。グループでの目標に取り組むかは児童・生徒自身に選ばせます。1グループは、4~5人程度が適切です。また、p.48のピラミッドランキングを使うことで、取り組む目標を決めやすくなります。
- p.48-49のワークシートを活用して、各グループが調べて話し合った内容の発表を記録させ、振り返りを書かせましょう。
- その他、p.44-45のツールで、自分が1年間に排出しているCO<sub>2</sub>の量を調べたり、p.28-41の企業の取り組みを参考にしたりしながら、社会課題と自身の生活との関わりを意識させましょう。



p.32-33 企業の取り組み

## 〈マイ探究でのスタートブックの活用〉

- p.50-51の「身近なSDGsを探してみよう!」に取り組みましょう。新聞などから、最近のSDGsに関わるニュースを探しましょう。近隣の商店や農家、事業所、公共施設等を訪問して、課題やSDGsに関わるインタビューをすると、ニュースや地域の出来事と課題とのつながりが見え、課題の解像度が上がります。
- p.52-53の「SDGsアクションをしよう」に取り組みましょう。アクションが先でSDGsの目標は後付け、目標が複数でも構いません。p.52では、実際に学校で行われているアクション例を紹介しているので、参考にしてください。p.53で作った計画に沿って実践しましょう。記録を取ってまとめたら、校内で発表し、学校全体で共有しましょう。



p.52-53 SDGs アクションをしよう

## 課題の見つけ方

探究学習では、児童・生徒自らで課題を設定しますが、何かきっかけがないと、課題を見つけなさいと先生が指示するだけでは、なかなか見つかるものではありません。探究学習やSDGsの実践校では、以下の方法を活用しています。

1. 校外学習などで、専門の施設を見学して課題を発見します。事前学習で何を見て確認するのかを明確にしておくといでしょう。
2. 外部講師などの専門家から話を伺うと、課題に気づくことがあります。この場合も事前学習は欠かせません。聞きたい内容をまとめておいて、それをもとに話を聞き、質問するようにしましょう。
3. 住んでいる町や学校周辺の課題について調べたり、地域の方に話を聞く中で課題を見つけたりすることもあります。例えば、「〇〇町調べ」などとして、町の特徴やSDGsの関わりを調べてみるのも良いでしょう。また、こうした身近な課題は、保護者に聞くこともできるので、比較的情報収集がしやすいです。
4. 教科の授業内容を発展させて、調べたり活動したりすることもあります。例えば、小学校6年生が理科の授業で発電について学んだ後、再生可能エネルギーについて調べたり、実際に発電に関する活動をしてみたりすることなどです。以下は、SDGsの目標のカテゴリーである「環境・生物」「社会・文化」「経済・産業」をもとに、学習指導要領解説編からまとめた関連教科等の学習内容です。ご自身が担当されている学年の学習内容とSDGsとの関連を確認してください。

### ◆環境・生物

小学校低学年	生活	季節の変化と生活、自然や物を使った遊び、動植物の飼育・栽培
	道徳	生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
小学校中学年	社会	【第3学年】身近な地域や市区町村の様子 【第4学年】都道府県の様子
	理科	【第3学年】身の回りの生物、太陽と地面の様子 【第4学年】季節と生物、雨水の行方と地面の様子、天気の様子
	体育(保健領域)	【第3学年】健康と周囲の環境の要因
	道徳	生命の尊さ、自然愛護
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
小学校高学年	社会	【第5学年】我が国の国土の様子、我が国の国土の自然環境
	理科	【第5学年】植物の発芽・成長・結実、流れる水の働きと土地の変化、天気の変化 【第6学年】植物の養分と水の通り道、生物と環境、土地のつくりの変化
	家庭	栄養を考えた食事、環境に配慮した生活
	体育(保健領域)	【第6学年】地域の保健に関わる様々な活動
	道徳	生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
中学校	社会(地理的分野)	【第1学年】世界各地の人々の生活と環境(生活や環境の多様性の理解) 【第2学年】日本の地域的特色(自然環境、人口、資源・エネルギー)
	理科	【第1学年】生物の観察と分類の仕方、自然の恵みと火山災害・地震災害 【第2学年】植物・動物の体のつくりと働き、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害 【第3学年】生物の成長と殖え方、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、自然環境の保全と科学技術の利用、天体の動きと地球の自転・公転、太陽系と恒星
	保健体育(保健分野)	【第3学年】健康と環境についての理解
	技術・家庭(技術分野)	生物育成の技術による問題の解決
	技術・家庭(家庭分野)	消費生活・環境についての課題と実践
	道徳	生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念
	特別活動	学級活動、生徒会活動、校外学習、部活動

### ◆社会・文化

小学校低学年	生活	学校と生活、家庭と生活、地域と生活、公共物や公共施設の利用、季節の変化と生活、生活や出来事の伝え合い、自分の成長
	道徳	規則の尊重、勤労・公共の精神
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
小学校中学年	社会	【第3学年】身近な地域や市区町村の様子、地域の安全を守る働き 【第4学年】都道府県の様子、自然災害から人々を守る活動
	体育(保健領域)	【第3学年】健康な生活についての理解、健康と周囲の環境の要因、明るさの調節・換気などの生活環境
	道徳	規則の尊重、公正・公平・社会正義、勤労・公共の精神
	特別活動	学級活動、児童会活動、クラブ活動、遠足など校外学習
小学校高学年	社会	【第5学年】我が国の産業と情報との関わり 【第6学年】我が国の政治の働き、グローバル化する世界と日本の役割
	家庭	食事の役割、栄養を考えた食事、衣服の着用と手入れ、生活を豊かにするための布を用いた製作 制作、快適な住まい方、物や金銭の使い方と買い物、環境に配慮した生活
	体育(保健領域)	【第5学年】けがの防止 【第6学年】病気の予防
	道徳	規則の尊重、公正・公平・社会正義、勤労・公共の精神
	特別活動	学級活動、児童会活動、クラブ活動、遠足など校外学習
中学校	社会(地理的分野)	【第1学年】世界各地の人々の生活と環境(生活や環境の多様性の理解) 【第2学年】日本の地域的特色(自然環境、人口、資源・エネルギー)、地域調査の手法、地域の在り方
	社会(歴史的分野)	【第3学年】近現代の日本と世界
	社会(公民的分野)	【第3学年】私たちが生きる現代社会、私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題
	理科	【第3学年】自然環境の保全と科学技術の利用
	保健体育(保健分野)	健康な生活と疾病の予防
	技術・家庭(技術分野)	社会の発展と材料と加工の技術、社会の発展と生物育成の技術、生活や社会を支えるエネルギー変換の技術、エネルギー変換の技術による問題の解決、生活や社会を支える情報の技術、社会の発展と情報の技術
	技術・家庭(家庭分野)	家族・家庭や地域との関わり、家族・家庭生活についての課題と実践、食事の役割、日常食の調理と地域の食文化、生活を豊かにするための布を用いた製作、住居の機能と安全な住まい方、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任、消費生活・環境についての課題と実践
	道徳	遵法精神・公徳心、公正・公平・社会正義、社会参画・公共の精神、勤労
特別活動	学級活動、生徒会活動、部活動、校外学習	

### ◆経済・産業

小学校低学年	生活	学校と生活、家庭と生活、地域と生活、公共物や公共施設の利用、自然や物を使った遊び
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
小学校中学年	社会	【第3学年】地域に見られる生産や販売の仕事 【第4学年】人々の健康や生活環境を支える事業
	理科	【第3学年】風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の通り道、物と重さ 【第4学年】電流の働き、空気と水の性質、金属・水・空気と温度
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
小学校高学年	社会	【第5学年】我が国の農業や水産業における食料生産、我が国の工業生産、我が国の産業と情報との関わり
	理科	【第5学年】振り子の運動、電流がつくる磁力、物の溶け方 【第6学年】電気の利用、燃焼の仕組み、水溶液の性質
	家庭	物や金銭の使い方と買い物、環境に配慮した生活
	特別活動	学級活動、児童会活動、遠足など校外学習
中学校	社会(公民的分野)	【第3学年】私たちと経済
	理科	【第1学年】力の働き、光と音、物質のすがた、状態変化 【第2学年】電流と磁界、物質の成り立ち、化学変化と物質の質量 【第3学年】力学的エネルギー、エネルギーと物質、水溶液とイオン、化学変化と電池
	技術・家庭(技術分野)	社会の発展と材料と加工の技術、生物育成の技術による問題の解決、社会の発展と生物育成の技術、生活や社会を支える情報の技術、生活や社会を支えるエネルギー変換の技術、エネルギー変換の技術による問題の解決、プログラミングによる問題の解決
	技術・家庭(家庭分野)	金銭の管理と購入、消費者の権利と責任、消費生活・環境についての課題と実践
	特別活動	学級活動、生徒会活動、校外学習、部活動

## ESDの単元計画

探究学習の流れを活用してESDを実践する際は、単元計画や指導計画をどのように考えたら良いでしょうか。

下図は、小学校3年生が地域の公園や特別支援学校との交流を通して、地域をより良くしたいという思いを醸成し、実践することをねらいとした計画です。探究のスパイラルを小単元3回で繰り返し、取り組んでいます。それぞれの小単元の中に、必要な課題の設定、情報の収集などを組み込んでいます。

この指導計画が右頁の表です。探究のサイクルを示す言葉を小学校3年生に合わせて、「つかむ」「体験する」などの分かりやすい表現にして、何度も繰り返していることがわかります。児童にも流れを伝えることで、今は全体計画のどれに取り組んでいるのかが分かり、活動への主体性を高めることができます。

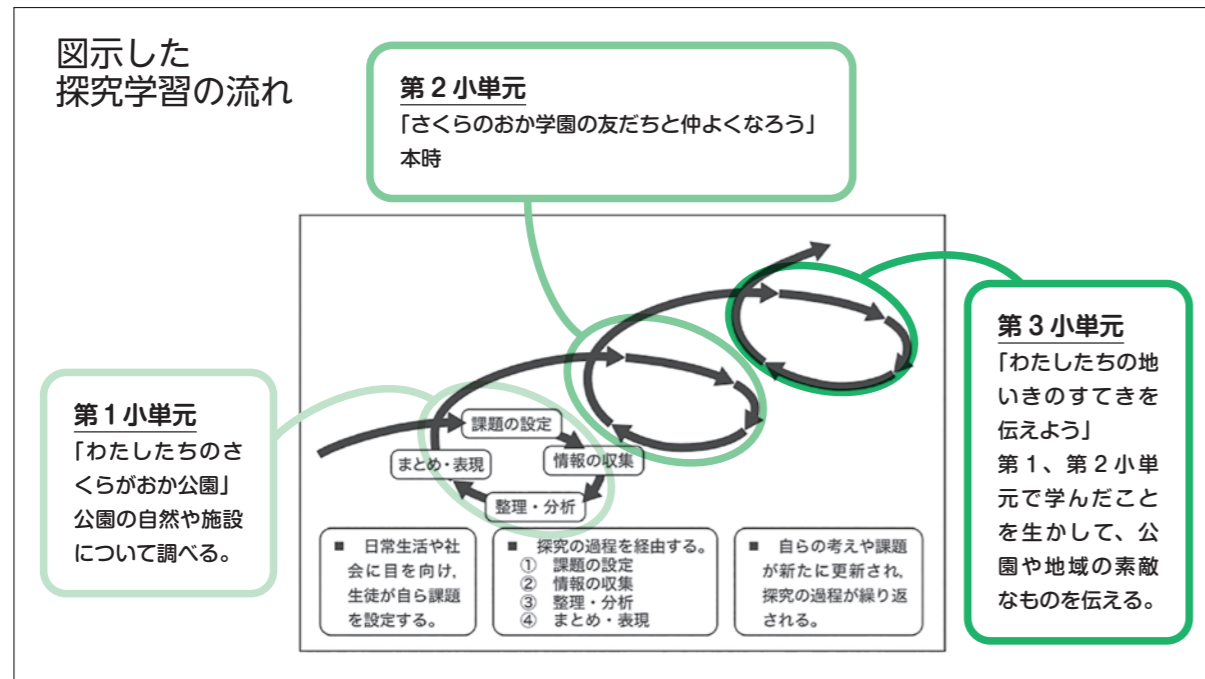
また、右端の列は、「教科等との連携」として、カリキュラムマネジメントでの教科や特活との連携を示しています。ESDや社会に関わる内容の探究では、道徳で意義や思いを知り、特別活動で実際にアクションすることも考えられます。

さらに、特別支援学校との交流を通して、どのような遊具が公園にあったら良いかを相談した上で、作った計画を市役所の公園緑地課に提案する実践活動を行

いました。SDGsアクションとしては、「SDGs目標11：住み続けられるまちづくりを」の実践としてまとめられています。活動後の振り返りからは、児童の高い成就感を読み取ることができました。

なお、総合的な学習の時間の探究学習やESDに取り組む際には、教科指導とは異なった先生の役割があります。児童・生徒の活動、環境づくりを中心に、探究的な指導方法や評価方法などの準備が必要です。以下を参考に、学年や学校で話し合ってください。

- ・先生の指示と児童生徒の活動を繰り返すような逐次指導ではなく、各時間の始めに、活動を端的に指示・解説し、残りの時間は児童・生徒主体で進める。
- ・課題設定のために専門家から話を聞く、見学に行く（本物に出会わせる）。
- ・教科学習との関連を示し、課題設定につなげる。
- ・毎時間の最後の振り返りや活動記録、作品やまとめ等をポートフォリオとして評価する。
- ・活動する時間と場を確保する。総合的な学習の時間であれば、30時間以上が目安。
- ・学校全体で計画や情報を共有し、学年で共通の活動を行う。
- ・時間管理（体験活動は4時間など）と安全指導を行う。



資料協力：多摩市立蓮光寺小学校

## 8 小単元の指導計画(全25時間)

ねらい	流れ	○主な学習活動	他教科との関連
多摩桜の丘学園の友だちについて、交流したり、体験したりして、自分の課題をつかむ。	つかむ 1	○オリエンテーション <b>ア</b> 多摩桜の丘学園の先生に、学校紹介や児童の好きなことや苦手なことについて話を聞く。	・社会科「学校のまわりの様子」
	体験する 2	○多摩桜の丘学園の4年生との交流（場所：多摩桜の丘学園） <b>ア</b> ・多摩桜の丘学園II部門4年生との交流 ・ヴェルレンジャー主催	・道徳科「教えてあげる？ 持ってあげる？」
	振り返る 1	○体験を振り返り、課題をもつ。 <b>カ</b>	
	調べる 2	○多摩桜の丘学園I部門4年生との交流にあたり、どんな遊びが考えられそうか、調べ、話し合う。 <b>オカ</b>	・国語科「引用するとき」
	体験する 2	○多摩桜の丘学園の4年生との交流（場所：多摩桜の丘学園） <b>ア</b> ・多摩桜の丘学園I部門4年生との交流	
	振り返る 1	○交流を振り返り、次回の交流に向けた意識をもち、交流の計画を立てる。 <b>カ</b>	
	つかむ 2	○インクルーシブ遊具を考えることを知り、誰もが楽しめる遊具に関心をもつ。 <b>ア</b> 参考：「みーんなの公園プロジェクト」>キッズ☆ページ「KOTOBUKI」遊具カタログ	・2024パリパラリンピックについて調べる。
	計画する 2	○多摩桜の丘学園II部門4年生との交流の計画を立てる。 <b>オカ</b>	・学級活動内容(1) 話し合い活動
	体験する 2	○多摩桜の丘学園の4年生との交流（場所：連光寺小学校） <b>ウエオ</b> ・多摩桜の丘学園II部門4年生との交流	
	計画する 2	○多摩桜の丘学園I部門4年生との交流の計画を立てる。 <b>オカ</b>	・学級活動内容(1) 話し合い活動
体験する 2	○多摩桜の丘学園の4年生との交流（場所：連光寺小学校） <b>ウエオ</b> ・多摩桜の丘学園I部門4年生との交流		
振り返る 1	○交流を振り返り、桜の丘学園の友達を具体的に思い浮かべながらどんな遊具だったら一緒に遊べそうか考える。 <b>イカ</b>		
広げる 5	○みんなが楽しめる遊具を考える。 <b>ウカ</b> ・誰もが楽しめるためには「こんな公園だったらいいな」という具体的なイメージを表すために、ビジョンボードを作成し、考える。	・国語科「こんな係がクラスにほしい」 ・各教科 思考ツールの使い方	
今までの体験やもてなした経験を生かす。			

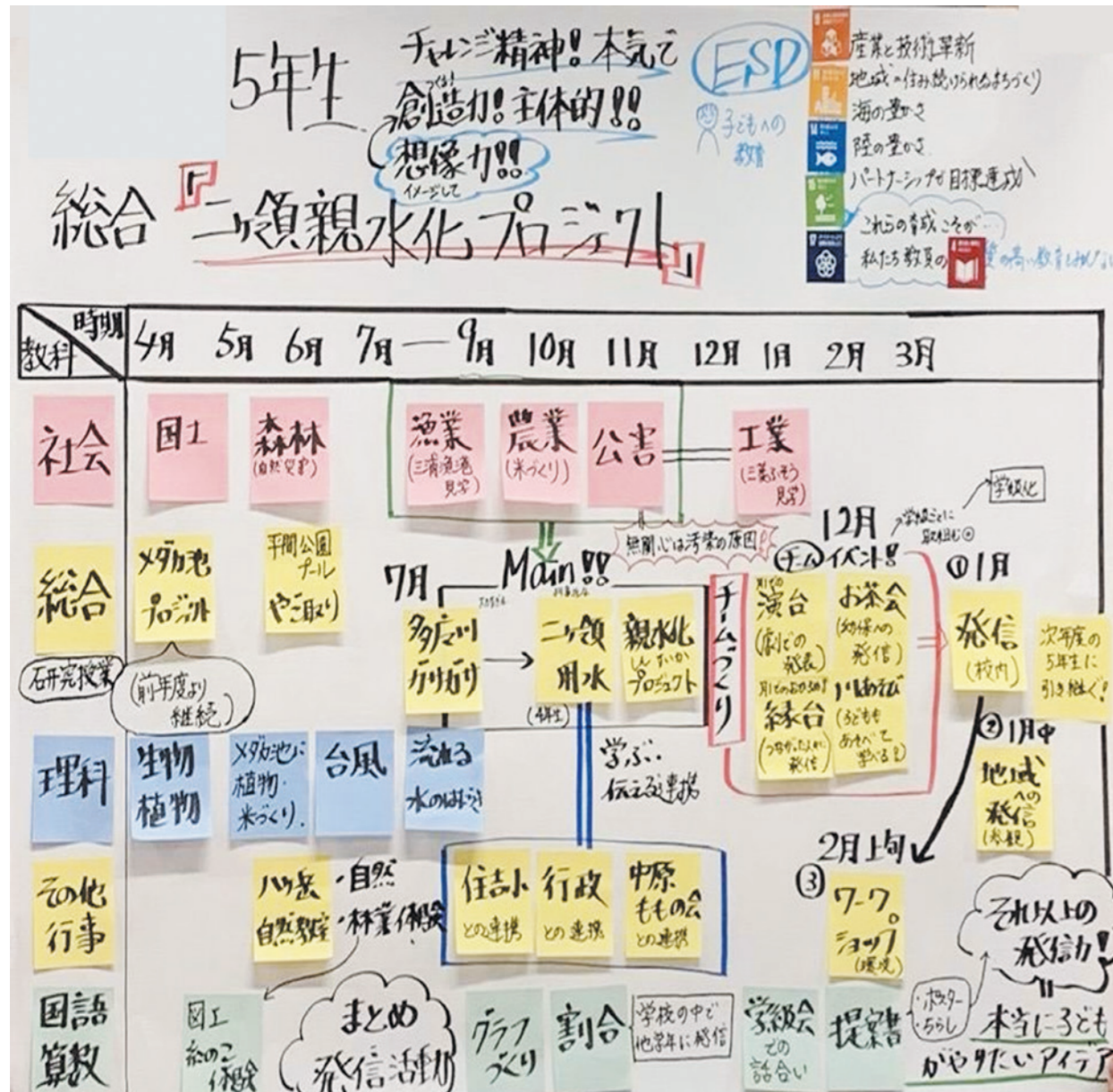
資料協力：多摩市立蓮光寺小学校

# ESDの年間指導計画としてのESDカレンダーの作成

ESDは単独の学級や学年で実施するよりも、学校全体で取り組む方がはるかに多くの成果を得られます。取り組みを学校全体で共有することで、さまざまな意見や考えを参考にしたり、多様な指導方法から取り組みを工夫・改善するためのアイデアを得たりすることができます。ユネスコでは、学校全体での取り組みを「ホールスクール・アプローチ」と呼んでいます。

その際に役立つのが「ESDカレンダー」と呼ばれる、ビジュアル版年間指導計画です。一目で活動概要が分かるため、指導内容を共有し、工夫しやすいのが特徴です。活動全体が俯瞰しやすいため、外部講師への依頼の準備も忘れずにできるなど、多くのメリットがあります。

図は、小学校5年生のESDカレンダーの例です。



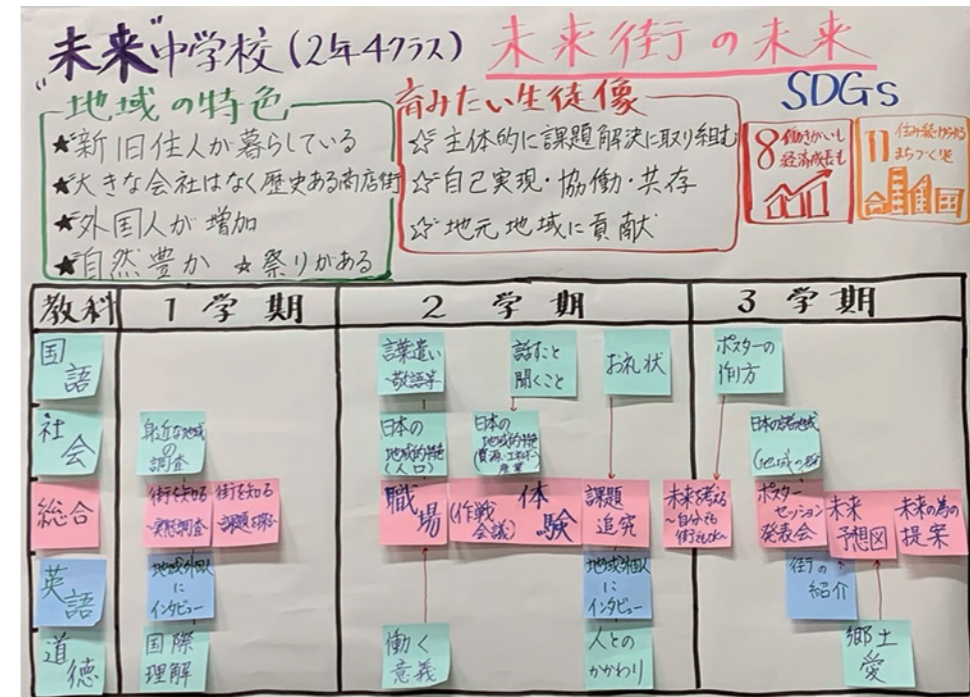
川崎市立小学校校内研修会 小学校の事例

## ESDカレンダーを作成する際の手順とポイント

- ①はじめに、模造紙の上部に「活動タイトル」「育成する資質能力」「SDGsとのつながり」を書きます。
- ②表の横軸には、4月始まりで「月」または「学期」を入れます。
- ③縦軸は「総合的な学習の時間」(以下、総合学習)を中央付近に、関係する「教科」や「特別活動・道徳」を上下に配置します。
- ④最初に、総合学習の活動内容を決めます。
- ⑤次に、教科等を配置します。総合学習の活動内容に合わせて教科の単元や内容を配置し、同じ時期に総合学習と教科の学習内容を揃えることで、質の高いカリキュラムマネジメントができます。活動内容のつながりは、上下の直線で示します。
- ⑥学習内容は移動できるように、付箋紙に活動内容等を書き、話し合って時期を決めます。移動することがなければ直接書いてもよいですが、話し合いの段階では、付箋紙に書くのがおすすめです。
- ⑦探究的に指導すると、児童・生徒の発想で活動時間が増えます。あまり細かい計画にしないことが、使いやすいESDカレンダーをつくるポイントです。

- ⑧各学年でサイズや型式を揃えると、壁に各学年のカレンダーを貼ることで、学校全体の生活科や総合的な学習の時間の活動を俯瞰することができます。
- ⑨ESDカレンダーをPCの表計算ソフトで作る学校も増えていますが、先生方が話し合うことの大切さを考えると、模造紙を使ったアナログESDカレンダーの方が内容は深まりますし、全員の思いを反映したカレンダーになりやすいです。

ESDカレンダーに加えて、ポスターでの発表、KJ法や各種思考ツール、ネット検索、写真撮影、プレゼンや動画作成などのスキルを、何年生までに経験させ習得させておくか、学校全体の約束事としての「ESD習得スキル一覧」があると学校全体の取り組みがスムーズに進行します。例えば、「KJ法は3年生までに児童が使えるようにする」ことで、中・高学年は説明なしでKJ法がすぐに活用できるようになります。「4年生までにタブレットでプレゼンできるようにする」とすると、写真を撮るときや記録をするときに、発表を意識した情報収集を行えるようになります。また、振り返りシートを書いたり、外部講師へのお礼状を作成したりするときも、こうしたスキルを活用することができるので、細かい指示が必要なくなっていくます。



地区教育委員会 ESD 研修会 中学校の事例

# ESDにおける教育目標の設定と小・中学校の総合的な学習の時間での学習評価の方法

【著者プロフィール】  
花園大学 教育学部 教授  
**木村 裕** 先生



滋賀県立大学助教および准教授、花園大学文学部教授を経て2026年度より現職。専門は、教育方法学。日本とオーストラリアにおける「開発教育」「グローバル教育」「持続可能な開発のための教育（ESD）」のカリキュラム開発や授業づくり、教育方法学に関わる基礎研究、学校教員との共同授業研究などに取り組む。

## 1.ESDにおける教育目標（育成をめざす資質・能力）の設定

ESDには、持続可能な社会づくりという「正解」のない課題の解決と、持続可能な社会の実現に向けた取組への学習者一人ひとりの参画が求められるという学習上の特徴があります。

こうした背景から、たとえばユネスコの「ESD for 2030」ではESDが、教育のあらゆる分野に関連する、認知的、社会情動的、行動的な学習の次元における横断的な資質・能力を養うものであることや、特に重視する能力として、共感、連帯、行動に関連するものがあることを指摘しています。認知的な学習の次元では、「持続可能性に関する課題とその複雑な相互関係を理解し、革新的な（disruptive）アイデアと代替案を探究する」ことが、社会的・情動的な学習の次元では「持続可能性のための中核的な価値観と態度を構築し、他の人々や地球に対する共感と思いやりを育み、変化を主導する意欲を起こさせる」ことが、そして行動的な学習の次元では、「個人的、社会的、政治的領域において、持続可能な変革のために実際の行動を起こす」ことがめざされています（UNESCO, *Education for Sustainable Development: A Roadmap*, 2020, p.14&17）。

また、日本の国立教育政策研究所の『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕』（2012年、p.9）では、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」として、4つの能力（「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」）と3つの態度（「他者と協力す

る態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」）が示されました。

さらに、筆者は学習上の要点を意識しやすくするために、「社会認識の深化」「自己認識の深化」「行動への参画」という3観点での教育目標の設定を提案してきました。「社会認識の深化」とは、解決すべき諸課題の現状や原因、課題同士の関連性（たとえば、環境問題と貧困の課題の関連など）などについての認識を、社会構造との関係という観点も意識しながら深めていくことを指します。「自己認識の深化」とは、解決すべき諸課題と自身とのつながりや、課題解決に取り組むための自身の力量、自他のものの見方や価値観などに関する認識を深めていくことを指します。そして「行動への参画」とは、そうした認識に基づいて課題解決の方法を検討し、個人で、あるいは他者と協働して、解決に取り組むことを指します（木村裕編著『中学校 全教科・教科外で取り組むSDGs – ESDの実践づくりの要点とアイデア』学事出版、2022年、pp.28-29）。

こうした教育目標に関する提案からは、次のような要点を指摘することができます。それは、社会に存在する課題の現状や課題が生まれてきた背景、原因などを理解すること、そうした課題の解決を「自分ごと」として捉えること、他者との議論なども通して自身の価値観の問い直しや解決策の探究を行うこと、課題解決のための行動とその省察を繰り返すことなどです（しばしば、「個人の変容」と「社会の変革」がESDの重要なキーワードとされるのは、このためです）。実践に際してはこうした点を意識しながら、学習者の強みや課題、学校や地域の特徴や活用可能なリソースなどもふまえて教育目標を設定することが重要です。

## 2.ポートフォリオ評価法

上述した学習上の特徴もふまえると、特に総合的な学習の時間でのESDでは、ポートフォリオ評価法やルーブリックを活用した評価方法の可能性を指摘できます。

ポートフォリオ評価法とは、ポートフォリオ（学習者のワークシートや絵、メモなどの作品、学習の過程で得られた資料、自己評価の記録、教師による指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの）づくりを通して、学習者による自己評価を促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチです。実践においては諸資料を蓄積するだけでなく、適宜その内容をふりかえって個々の学習者の到達点や課題を確認し、その後の学習や指導の充実に活かすことが重要です（西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法—新たな評価基準の創出に向けて』図書文化社、2003年、pp.52-63）。

たとえば、滋賀大学教育学部附属中学校（以下、滋附中）では、総合的な学習の時間「BIWAKO TIME (BT)」において、「BTワーク」と呼ばれる学校独自のワークブックを作成して

います。そこには、後述するルーブリックのほか、各種のワークシートや資料なども収められ、各学習場面で必要なページが使われます。また、BTワークとともにICTによるコミュニケーションツールも活用し、写真や動画、参考資料などの保管や共有も行われます。同校ではこうしてポートフォリオをつくるとともに、適宜それを見返しながらか学習内容の整理や自己評価、生徒と教師による対話などを行いつつ、探究学習の最終的なまとめや発表につなげているのです。

### 【資料1：「BTワーク」の目次（一部）】

BIWAKO TIMEをはじめよう（全体ガイダンス）	
1. はじめに	2
2. BIWAKO TIMEの目標	2
[略]	
BIWAKO TIMEをすすめよう（学習の計画と研究の記録）	
[略]	
5. 学習の計画	15
6. 中間交流会の記録	16
[略]	
10. BIWAKO TIMEを振り返って	26
調査研究の記録	27
BIWAKO TIMEをたかめよう（学習資料）	
[略]	
9. プレゼンテーションをしよう	48
10. 必要ときに利用しよう「思考ツール」	50
[略]	
BIWAKO TIMEを記録しよう（日々の学習記録）	
[略]	
『BIWAKO TIME ワークブック』（2025年版）の目次を一部抜粋して筆者作成	

## 3.ルーブリックを活用した評価方法

ルーブリックとは、「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語（descriptors）から成る評価基準表」（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計—パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化社、2016年、p.100）です。

たとえば、滋附中では、学校教育目標や実践の蓄積、生徒の実態や教師の願いなどをふまえて独自のルーブリックを開発し、探究学習の開始時から生徒とも共有しています。ルーブリックは、教師による評価はもちろん、生徒による自己評価や相互評価などの場面でも活用され、学習や指導の改善に活かされるとともに、めざす生徒の姿の実現に必要な授業や単元計画の検討などにも活用されています。

ポートフォリオやルーブリックなどの効果的な活用は、自身の学習をメタ認知して改善する力

や学習への姿勢の育成にもつながります。これは、探究学習の充実はもちろん、ESDで重視される生涯学習の観点からも重要です。ただしこれらは、たとえば重要語などを暗記できているかどうかや、公式に則って計算する力の習得状況などの評価には適しません。実践に際しては、教育目標との対応を念頭に置いた評価方法の選択や組み合わせが求められます。

### 【資料2：「BTルーブリック」の内容（一部）】

レベル	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5	略	テーマについて創造的な問いや仮説を立てて研究を進め、調査で得られた成果を様々な角度から分析し、論理的に構成して提案性的な発表ができています。	略
4		略	
3		テーマについて問いや仮説を立てて研究を進め、調査で得られた成果を論理的に発表することができています。	
2		略	
1		問いや仮説を立てて研究する意義を実感している。	

『BIWAKO TIME ワークブック』（2025年版）p.2のルーブリックを一部抜粋して筆者作成



# 千葉県八千代市立大和田南小学校

教えてくれた先生  
帆足こず恵先生



千葉県八千代市立大和田南小学校は、「世界に生きる大南の子」を教育目標に、ユネスコスクールとして国際社会に生きる人材を育てる教育活動に取り組んでいます。同校では、SDGs達成に向けたESDの推進を教育課程に明確に位置づけ、地域や民間企業との連携や海外の学校との交流を活発に行いながら、さまざまな活動に学校全体で取り組んでいます。本頁では、4年生のクラスを担当している帆足こず恵先生に、同校での「SDGsスタートブック」やウェブサイト「EduTown SDGs」の活用方法について伺いました。

### ——帆足先生が担当されている4年生の総合的な学習の時間とSDGsの関わりについて教えてください。

4年生では、主に夏休み前から後期（9～3月）にかけての活動で、SDGsの要素を多く取り入れています。夏休みには、全校児童が「自分にもできるSDGs」をテーマにした課題に取り組むため、夏休みに入る少し前から、「ESDめがね（ESDの4つの視点：見直す・変わる・つなげる・広げる）」で物事を見る力をつけられるよう、学校独自のワークシートを使った活動をしています。

夏休み明けには、ペアとなる学級のグループを異学年で複数つくり、調べたことをまとめたポスターやスライド資料を使って、グループのメンバーに発表を行います。

4年生では、発表会後の後期の活動で、発表会で児童が取り上げていたSDGsの課題で最も多かったテーマを中心に学習を進めていきます。令和7年度は、「海の豊かさ」「福祉」をテーマに、調べ学習をした後に、専門家にオンラインで話を聞かせてもらうことで、課題に対する理解を深めるとともに、実際に地域のごみ拾いを行うことで海に流れていくごみを減らしたり、白杖や車いすを使う体験を通して、障がいのある方の気持ちや、街で障がいのある方に会ったときの支援の方法を考えたりしました。

### ——「SDGsスタートブック」や「EduTown SDGs」はどんな場面で活用できますか？

本校では、総合的な学習の時間や夏休みの課題で調べ学習を行う際の参考資料として、また、社会科や理科などの教科学習の補助教材として、主に3年生以上の児童が活用しています。「SDGsスタートブック」や「EduTown SDGs」は、SDGsの17の目標について、わかりやすい文章や映像で解説されているので、子どもたちが主体的に調べることができるのももちろんのこと、自分が調べ

た目標以外の目標や社会課題について関心をもつきっかけにもなっています。社会科の学習で工場について学んだ際にも、「これ、目標12番の『つくる責任、つかう責任』に関係しているよね」と子どもたち自ら授業の中で積極的に声を上げるなど、教科の学びを社会の問題と結び付けて考える力がついたり、自発的に学習内容の理解を深めたりすることに役立っています。

### ——「SDGsスタートブック」や「EduTown SDGs」を使った授業の流れを教えてください。

例えば、後期に行った「海の豊かさ」をテーマにした授業の流れをまとめると、次のようになります。

#### 【本時の展開】(16 / 26)

時配(分)	学習活動	□指導上の留意点 ■評価
7	写真を見て何の写真かを話し合い、人間が捨てたごみや生活排水等が、海洋生物にまで影響を及ぼしていることを知る。	□海岸で捨てたごみやウミガメの腹部から出てきたごみ、濁った海等の写真、水の循環のイラストを電子黒板に映し、予想したことを発言させる。
10	※海洋汚染についてまとめた映像（「EduTown SDGs」目標14：海の豊かさを守ろう）を見て、気付いたことを話す。また、SDGsスタートブックも参照しながら、SDGsの何番に関わるのかを考える。	□プラスチックごみによる海洋汚染、魚の獲り過ぎによる影響の動画を見せる。 □魚を獲り過ぎたり、海洋プラスチックの影響で海の環境が変化したりすることが、マイクロプラスチックの摂取として自分に返ってくることを気付かせる。
3	学習問題を考える。「海の豊かさを守るために、できることを考えよう。」	□子どもたちの言葉で、学習問題をたてる。
15	自分たちができることを考えて、予想したことをノートに書き、グループの友達と共有してから、全体で発表する。	□「誰が」「何を」「何を」を意識させて、予想したことをノートに書かせる。その際に、なぜそう思ったのか理由も書く。 ■海洋が抱えるさまざまな問題に課題意識をもち、自分事として考え、自分たちができることはなにかを考えることができる。（ノート、発表）
8	予想したことを発表する。	□「誰が」「何を」「なぜそう思ったのか」、予想したことを発表させる。発表した内容を、同じカテゴリーごとに板書する。
2	次時の活動を知る。	□次時から調べ学習をすることを伝える。



EduTown SDGsの映像で、魚を獲り過ぎている問題について学ぶ様子。

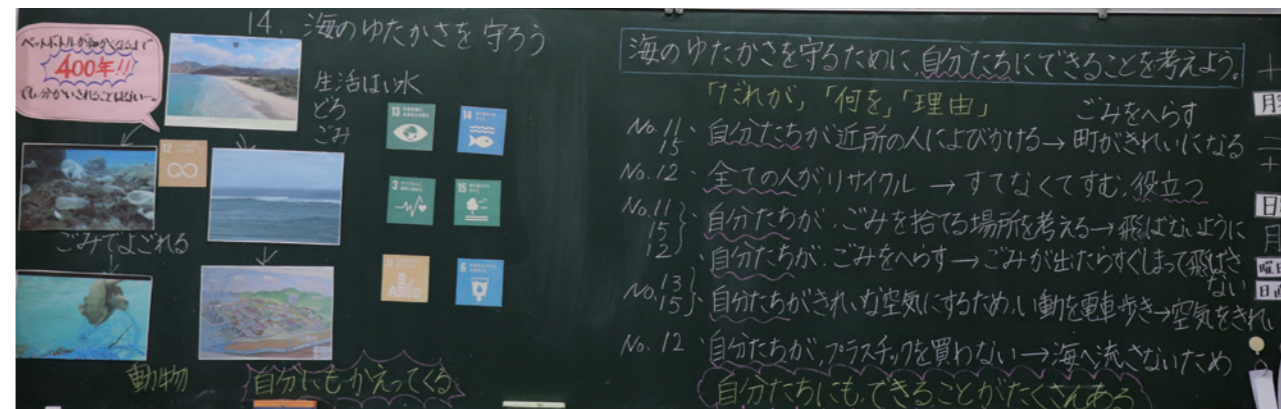


SDGsスタートブックを参照しながら、SDGsとの関わりや自分たちにできることを考える。



人間が1週間でクレジットカード1枚分のマイクロプラスチックを摂取していることを説明。子どもたちにとって身近な例や数字に置き換えることで、環境問題に対する危機感をもちやすくなる。

### 【板書例】



子どもたちから出た意見をSDGsの何番の目標が分かるように板書する。

### ——子どもたちの活動に寄り添う中で、意識していることや心がけていることを教えてください。

子どもたちが調べた内容を単にまとめるだけでなく、そこから「なぜ？」という疑問を見つけ、さらに深掘りして調べたり、考えを深めたりすることができているかを重視しています。例えば、ごみ拾いの活動なら、「なぜごみが出るのか」という根本的な問題意識をもっているか、その問題を解決するためにはどうすればよいか、問題解決のために自分には何ができるのかといったことまで考えられるよう、声かけをするようにしています。

また、日頃からさまざまな場所に教師自らが足を運んで、子どもたちが社会問題を身近に感じられるような資料や情報を集めるようにしています。「海の豊かさ」の授業では、沖縄の海で自身がごみ拾いをしたときの写真や、美ら海水族館で見たウミガメの腹部から出てきたごみの展示の話を

しましたが、子どもたちは、動物にまで被害が出ているという事実を知り、世界で起こっている問題を「自分事」として捉えることにつながったことを実感しましたね。

### ——最後に、SDGsをテーマにした授業や活動に取り組む全国の先生にメッセージをお願いします。

SDGsは2030年までと設定されていますが、学校現場でのSDGsの指導に対するニーズはむしろ高まっていると思います。子どもたちは日常的にテレビなどでSDGsの話題を目にすることが多く、きっかけさえできれば、子どもたち自身で日々の授業や活動と社会問題を結びつけて考えられるようになります。SDGsスタートブックやEduTown SDGsは、SDGsに関連する学習や活動を指導する経験が浅い先生にも使いやすい教材になっているので、ぜひ「きっかけ」の一つとして活用してみてください。

本頁では、SDGsスタートブックと組み合わせて活用できるウェブサイト「EduTown SDGs」と、東京書籍の小学校指導者用デジタル教科書の関連する単元を示した表を紹介しています。

東京書籍の教科書をお使いでない学校でも、この表をご参照いただくことで、SDGs17の目標や、企業の取り組みを教科学習に取り入れることができるので、教科の学びを社会とつなげ、子どもたちの学ぶ意欲や意義を引き出すことができます。ぜひ日々のご指導にお役立てください！

EduTown SDGsへのアクセスはこちらから。



教科書学習での実践の一例はこちらから。



教科	学年	ページ	指導者用デジタル教科書該当箇所	記事ジャンル	リンク先
算数	4年生・上	p.132	算数で読みとこう 食べ残しをへらそう	目標解説	SDGsの目標：2 飢餓をゼロに
社会	4年生	p.47	1 水はどこから	目標解説	SDGsの目標：6 安全な水とトイレを世界中に
社会	4年生	p.50	ひろげる 暮らしをささえる電気	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
社会	4年生	p.69	2 ごみのしよりと利用	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
理科	4年生	p.49	こんなところにも！ 理科の世界たんけん部 電気でモーターを回して走る！ 電気自動車	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
理科	4年生	p.55	理科の世界たんけん部 雨水によるさい害をふせぐ	企業事例	積水化学工業：いつまでも安心して住み続けられるまちをつくる
				目標解説	SDGsの目標：11 住み続けられるまちづくりを
算数	5年生・下	p.122	算数で読みとこう 地球温だん化について考えよう	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
				目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
社会	5年生・下	p.38	3 工業生産を支える運輸と貿易	企業事例	いちごECOエナジー：持続可能な未来を支える再生可能エネルギー
				目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
社会	5年生・下	p.46	4 これからの工業生産とわたしたち	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
社会	5年生・下	p.108	2 わたしたちの生活と森林	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
道徳	5年生	p.83	今日からできるエシカル消費	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう

家庭	5・6年生	p.60	ステップ3 物を生かして快適に生活しよう	企業事例	ファーストリテイリング：服のチカラで世界を笑顔に
				目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
国語	6年生	p.152	「永遠のごみ」プラスチック～プラスチックごみの問題について考えよう	企業事例	ネスレ日本：プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに
				目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
算数	6年生	p.188	算数で読みとこう プラスチックごみについて調べよう	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
理科	6年生	p.9	理科の世界探検部 海洋ごみ問題に対する取り組み	企業事例	ネスレ日本：プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに
				目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
理科	6年生	p.21	理科の世界探検部 暮らしを支える化石燃料と空気	企業事例	いちごECOエナジー：持続可能な未来を支える再生可能エネルギー
				目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
理科	6年生	p.67	広げよう！ 理科の発想 アイガモと協力して米づくりをしています	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
理科	6年生	p.67	理科の世界探検部 食物連鎖と生き物の数 はってん・・・中学3年で学ぶこと	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
理科	6年生	p.114-115	考えよう 地震や火山の噴火による災害から生命を守るために、私たちにできることを…	目標解説	SDGsの目標：11 住み続けられるまちづくりを
理科	6年生	p.116-117	理科の世界探検部 地震についてくわしく知ろう	目標解説	SDGsの目標：11 住み続けられるまちづくりを
理科	6年生	p.138	9 電気と私たちの暮らし	企業事例	いちごECOエナジー：持続可能な未来を支える再生可能エネルギー
				目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
理科	6年生	p.153	こんなところにも！ 理科の世界探検部 かげとのたたかい	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
理科	6年生	p.178	理科の世界探検部 私たちの暮らしと地球の気温	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を



# 広島県呉市立横路中学校

教えてくれた先生  
山地光一郎先生



広島県呉市立横路中学校は、「自分を育て 道を拓く～自律・協働・貢献～」を教育目標に、筋道を立てて考え、自ら表現する生徒の育成に取り組んでいます。同校は隣接する呉市立横路小学校と併設型小中一貫教育を行っており、9年間を通じて、地域の住民や企業と一体となって、主体的に学ぶ児童・生徒の育成を目指しています。

本頁では、2年生の主任をしている山地光一郎先生（取材当時）に、同校での「SDGsスタートブック」やウェブサイト「EduTown SDGs」の活用方法について、お話をうかがいました。

## ——山地先生が担当されている中学校2年生の「総合的な学習の時間」の概要と、SDGsとの関連について教えてください。

まず、横路中学校では、横路小学校と連携して年間の指導計画を策定しています。小学校4年生の「地域学習」からはじまり、小学校では自分の住む地域について探究し、中学校では呉市に範囲を広げて学習をしています。中学校1年生では、「呉市を活性化させるためにはどうしたらいいだろう」という課題について、歴史や呉市にある企業について調べ学習を行いました。2年生では、1年生で調べた課題を解決するために、SDGsの17の目標を地域の課題に結びつけて、呉市を活性化させるための具体的な方策を提案することにしました。活動のゴールは市長に提案することとして設定しました。

また、2年生は職業体験学習もあり、「働く」ことへの意識を持つための時間のなかでもSDGsを取り入れました。たとえば、訪問する企業のSDGsの取り組みについてインタビューすることをテーマのひとつとしました。具体的には、スーパーマーケットであれば、食品ロスに対する取り組みについて調べたりインタビューしたりといった活動を行いました。加えて、呉市内のさまざまな企業に出前授業に来ていただき、そのなかで、SDGsを踏まえてお話をさせていただくようお願いしました。

## ——「SDGsスタートブック」や「EduTown SDGs」はどんな場面で活用できますか？

学習をまとめていく際に、生徒のまとめがどうしても感想文になってしまいがちなので、「SDGsスタートブック」を見ながら考えをまとめるように促したり、授業の振り返りを行ったりするようにしていました。特に今の生徒たちはタブレット端末を持っているので、関心のあるページをカメラで撮り、その画像を参照しながら書いています。

また、総合学習を進めるなかで、自分たちの思いや願いだけで提案を考えていくと、どうしても「根拠がない」「地球環境などの視点に立っているのか」といった課題に直面することがあります。そういうときに、「SDGsスタートブック」に掲載されている社会課題解決のための企業の取組事例や、ウェブサイト「EduTown SDGs」の17の目標解説映像を参考にすることで、「SDGsの視点に立って、このように考えました」という提案の根拠につなげることも役立てることができました。

総合学習以外でも、SDGsの視点を活用することで、教科横断的な学習をすることができます。教科の学習が各教科の枠を超えないという課題があるなかで、「SDGsスタートブック」はSDGsの基礎的な知識が一冊にまとめられているため、さまざまな教科の関連する学習の中で参照したり、考えさせたりすることがしやすいです。

## ——「SDGsスタートブック」や「EduTown SDGs」を使った授業の流れを教えてください。

この授業の核となる市長への提案のもととなるアイデアは、中学校1年生のころに考えたものです。ただ、それでは根拠の弱いアイデアであったので、2年生になって実際に呉市にある課をもとにした班にわかれ、アイデアをブラッシュアップしていきました。

地域協働課  
～空き家を活用する～

実際に呉市役所にある課にぞらえて班分けを行い、提案を検討した。

5月ごろから継続して発表のもととなる材料を集めさせながら、夏休み前の7月に提案の中間発表会を行いました。夏休みにもお家の方へのインタビューや、地域のイベントに参加しての感想をまとめるなど、調査を続けました。



呉市を活性化させるための提案について中間発表を行っている様子。この班は空き家を活用することで、SDGsのゴール11番に寄与できると考えた。

9月には、「EduTown SDGs」アライアンス企業である日本航空さん、積水化学工業さんから提案に対してのフィードバックや、企業の取り組みについてのお話を録画映像や資料でいただき、最終発表会に向けて提案の確度を高めていきました。その後、市長に提案を行う代表を決めるための最終発表会を行いました。

提案だけではなく、ポスターを作るなど、実際に活動をする時間が取れるとなおよかったのですが、それは今後の課題です。



フィードバックの映像を撮影する様子（積水化学工業様）。

広島県での取り組み① 広島県の伝統的な産品のプロモーション

「広島空港30周年スペシャル企画」として広島便をご利用のお客さまに江戸時代から続く伝統的な技能で創られる宮島御砂焼をプレゼント

●広島ならではの伝統技能・魅力を発信し広島に訪れる人や御砂焼に関心をもつ人を増やし地域活性化に貢献

広島県でのSDGsに関する取り組み（日本航空様）。

次	時	過程	学習活動	評価方法
一	1	課題の発見	○昨年度考えた呉市を活性化させるための提案を振り返り、これから取り組む地域の課題解決に向けて今後の活動への見直しをもつ。	発言 ノート
	2		○SDGsについて資料や動画を用いて学ぶ。	行動観察 ワークシート
	3		○自分たちの生活の中でどのようなことがSDGsにつながるかを考える。	
二	4	情報の収集	○さまざまな方法で呉市の課題や問題点を調べる。	活動の観察 デジタルノート
	5		○それぞれテーマごとに市役所の6つの課に分かれ、提案を考える。（福祉保健課・生活支援課・観光企画課・文化スポーツ課・地域協働課・環境資源課） ○提案したい内容について調べ、情報を集める。	ノート
三	6	整理・分析・表現	○問題提起をする（仮説を立てる）	活動の観察 デジタルノート
	7		○論議を行う（根拠を示して考える）	ノート
	8		○SDGsの視点で、どんなことに気を付けて提案内容を考えたらよいか考える。 ○呉市を活性化させるアイデアを考え合う。  グループで交流して、自分の意見が変わったり、深まったりしたことはどんなことだろう。	
三	9	実行	○最終確認の発表会を行う。（実際に呉市長に提案を行う。）	提案プレゼンテーション
	10		○提案を相互評価する。  必要な情報を目的や意図に応じて、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりすることで提案が分かりやすくなり、自分の考えをより効果的に伝えることができる。	発言 活動の観察 ノート

「呉市を活性化させる提案をしよう」の指導計画。

## ——生徒たちの活動に寄り添うなかで、意識されていることや生徒の変化を感じたことなどがあれば教えてください。

自分たちの生活とつなげる、という点を意識しています。小学校も中学校も、なかなか枠を飛び出せない、学びが社会とつながっている実感が持ちにくいところに課題感を感じていました。企業の方をお呼びすることで、学校の学びと、自分たちの暮らし、加えてSDGsが結びつけやすくなったと感じています。学んだことで、生活を見る目が少し変わってきたと感じる場面があります。たとえば、毎日生徒たちが日記を書いていて、それに目を通して、「あの会社のお菓子の包み紙がSDGsに関係しているんだ」ということが書かれていたりします。生徒たちの中で自分事になっていると感じる瞬間ですね。

私は技術・家庭科（技術分野）を担当していますが、知識を覚えるだけではなく、その知識が世の中でどう使われているのかを考えることは、総合的な学習の時間での学びと共通するところがあります。総合的な学習の時間をきっかけに技術の授業も少し変わってきた気がします。



授業のここで

SDGs

中学校

本頁では、SDGsスタートブックと組み合わせて活用できるウェブサイト「EduTown SDGs」と、東京書籍の中学校指導者用デジタル教科書の関連する単元を示した表を紹介しています。

東京書籍の教科書をお使いでない学校でも、この表をご参照いただくことで、SDGs17の目標や、企業の取り組みを教科書学習に取り入れることができるので、教科の学びを社会とつなげ、子どもたちの学ぶ意欲や意義を引き出すことができます。ぜひ日々のご指導にお役立てください！

EduTown SDGsへのアクセスはこちらから。



教科書学習での実践の一例はこちらから。



教科	学年	ページ	教科書のコーナータイトル	記事ジャンル	SDGsリンク先のタイトル
国語	1年生	p.220	未来への扉 多様性と共生社会	目標解説	SDGsの目標：10 人や国の不平等をなくそう
道徳	1年生	p.176	付録②海の豊かさを守ろう	企業事例	ネスレ日本：プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに
道徳	1年生	p.176	付録②海の豊かさを守ろう	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
道徳	1年生	p.180	付録③二〇〇年 未来の天気予報	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
国語	2年生	p.216	未来への扉 地球環境と人間社会	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
国語	2年生	p.216	未来への扉 地球環境と人間社会	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
国語	2年生	p.216	未来への扉 地球環境と人間社会	企業事例	ネスレ日本：プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに
数学	2年生	p.233	食品ロスの未来を予測しよう	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
理科	2年生	p.199	【私たちのSDGs】大切な水資源	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
理科	2年生	p.199	【私たちのSDGs】大切な水資源	目標解説	SDGsの目標：6 安全な水とトイレを世界中に
道徳	2年生	p.133	plus 全ての子どもに教育を — マララ・ユスフザイ	目標解説	SDGsの目標：4 質の高い教育をみんなに
道徳	2年生	p.133	plus 全ての子どもに教育を — マララ・ユスフザイ	目標解説	SDGsの目標：5 ジェンダー平等を実現しよう
道徳	2年生	p.184	付録②飢餓をゼロに	目標解説	SDGsの目標：2 飢餓をゼロに
道徳	2年生	p.188	付録③AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
国語	3年生	p.50	絶滅の意味	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
国語	3年生	p.50	絶滅の意味	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
国語	3年生	p.72	読書への招待 何のために「働く」のか	目標解説	SDGsの目標：8 働きがいも 経済成長も
国語	3年生	p.118	書く〈論証・説得〉「広告の批評文」食品ロス	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
国語	3年生	p.214	国際社会と私たち	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
理科	3年生	p.63	【まちなか科学】エコカーに使用されている電池	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
理科	3年生	p.270	第2章 自然環境の調査と保全	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
理科	3年生	p.282	1 さまざまな物質とその利用 ●プラスチックの未来	企業事例	ネスレ日本：プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに
理科	3年生	p.282	2 さまざまな物質とその利用 ●プラスチックの未来	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
理科	3年生	p.284	4 カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
理科	3年生	p.294	3 科学技術の発展 ●持続可能な社会へ	企業事例	アドバンテスト：半導体をテストで支えて持続可能な社会をつくる
理科	3年生	p.298	【私たちのSDGs】ナショナル・トラスト活動と里山保全活動	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
理科	3年生	p.298	【私たちのSDGs】ナショナル・トラスト活動と里山保全活動	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
理科	3年生	p.300	2 持続可能な社会と科学技術	企業事例	アドバンテスト：半導体をテストで支えて持続可能な社会をつくる
理科	3年生	p.301	脱炭素社会に向けて	企業事例	いちごECO エナジー：持続可能な未来を支える再生可能エネルギー
理科	3年生	p.301	脱炭素社会に向けて	企業事例	日本航空：二酸化炭素を減らしてクリーンな空の旅を
理科	3年生	p.301	脱炭素社会に向けて	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
理科	3年生	p.307	教えて江守さん！ 社会につながる科学 気候変動を知って行動に移そう	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を

英語	3年生	p.19	Unit2 How do you choose your clothes? (エシカルファッション)	企業事例	ファーストリテイリング：服のチカラで世界を笑顔に
英語	3年生	p.19	Unit2 How do you choose your clothes? (エシカルファッション)	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
英語	3年生	p.27	Real Life English 2 講演 (世界の食料問題)	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
英語	3年生	p.31	Unit3 How can we save animals? (絶滅のおそれのある動物たち)	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
英語	3年生	p.77	Unit6 What does it mean to be a global citizen? (国をこえて助け合う大切さ)	目標解説	SDGsの目標：17 パートナリーシップで目標を達成しよう
英語	3年生	p.92	Let's Read 2 Power Your Future (エネルギー問題)	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
英語	3年生	p.102	1 further Reading Malala Yousafzai: Education First (女子教育と多様性)	目標解説	SDGsの目標：4 質の高い教育をみんなに
英語	3年生	p.102	1 further Reading Malala Yousafzai: Education First (女子教育と多様性)	目標解説	SDGsの目標：5 ジェンダー平等を実現しよう
道徳	3年生	p.182	付録②住み続けられるまちづくりを ※岡山県真庭市の事例紹介あり	目標解説	SDGsの目標：11 住み続けられるまちづくりを
道徳	3年生	p.186	付録③女子昔ばなし	目標解説	SDGsの目標：5 ジェンダー平等を実現しよう
道徳	3年生	p.192	付録④救佐鳥プロジェクト	目標解説	SDGsの目標：2 飢餓をゼロに
公民		p.196	第5章 地球社会と私たち 2節 さまざまな国際問題	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
公民		p.198	第5章 地球社会と私たち 2節 さまざまな国際問題	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
公民		p.200	第5章 地球社会と私たち 2節 さまざまな国際問題	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
公民		p.202	もっと知りたい！ これからの日本のエネルギー	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
公民		p.204	第5章 地球社会と私たち 2節 さまざまな国際問題 5 平和な世界に向けて	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
地図		p.13	世界と日本の環境問題	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
地図		p.13	世界と日本の環境問題	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
地図		p.40	ヨーロッパ州の資料② 6 ヨーロッパ在留の難民・亡命者	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
地図		p.48	アフリカ州の資料② 6 所得/7 都市人口割合の変化/8 砂漠化が進むサヘル	目標解説	SDGsの目標：1 貧困をなくそう
地図		p.56	北アメリカ州の資料③ 10 アメリカの民族別の収入	目標解説	SDGsの目標：10 人や国の不平等をなくそう
地図		p.60	南アメリカ州の資料 7 アマゾン川流域の…	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
地図		p.116	関東地方の資料② 10 首都圏外郭放水路	目標解説	SDGsの目標：11 住み続けられるまちづくりを
地図		p.147	世界と日本の資源・エネルギー	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
地図		p.153	世界の経済・国際関係 2 世界の所得と貧困	目標解説	SDGsの目標：1 貧困をなくそう
地図		p.154	世界の経済・国際関係 4 世界の紛争	目標解説	SDGsの目標：16 平和と公正をすべての人に
保健体育		p.133	読み物 レジ袋の有料化	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
保健体育		p.138	地球温暖化による健康や安全への影響	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
保健体育		p.140	章末資料 2 SDGsに取り組み町(鹿児島県大崎町)	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
技術		p.82	3章 2 これからの材料と加工の技術	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
技術		p.86	3章 編末資料 すごいぞ！ 技術 海洋プラスチック問題の解決	目標解説	SDGsの目標：14 海の豊かさを守ろう
技術		p.130	3章 2 これからの生物育成の技術 資料	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
技術		p.135	3章 編末資料 すごいぞ！ 技術 森林と私たちの生活	企業事例	住友林業：木を育て、使い、森林の循環をつくる
技術		p.135	3章 編末資料 すごいぞ！ 技術 森林と私たちの生活	目標解説	SDGsの目標：15 陸の豊かさを守ろう
技術		p.142	1章 2 技術のとびら 発電方法の最適化	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
技術		p.190	3章 2 これからのエネルギー変換の技術	企業事例	日本航空：二酸化炭素を減らしてクリーンな空の旅を
技術		p.190	3章 2 これからのエネルギー変換の技術	目標解説	SDGsの目標：13 気候変動に具体的な対策を
技術		p.197	3章編末資料 すごいぞ！ 技術 モビリティの進歩	企業事例	日本航空：二酸化炭素を減らしてクリーンな空の旅を
家庭		p.105	5章 1 持続可能な食生活を目指して	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
家庭		p.162	3章 1 持続可能な衣生活を目指して/せいかつメモ (繊維のリサイクル)	企業事例	ファーストリテイリング：服のチカラで世界を笑顔に
家庭		p.162	3章 1 持続可能な衣生活を目指して/せいかつメモ (繊維のリサイクル)	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
家庭		p.210	3章 1 省エネルギーと持続可能な社会/せいかつメモ (エネルギー消費量、LED…)	目標解説	SDGsの目標：7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
家庭		p.213	3章 1 省エネルギーと持続可能な社会/せいかつメモ (エネルギー消費量、LED…)	目標解説	SDGsの目標：12 つくる責任 つかう責任
家庭		p.256	2章 10 子どもにとっての家族 せいかつメモ (こども基本法)	目標解説	SDGsの目標：3 すべての人に健康と福祉を

## ① 鹿児島県立屋久島高等学校

教えてくれた先生  
渡邊竜聖先生



「世界遺産・屋久島」にある島内唯一の全日制高等学校である鹿児島県立屋久島高等学校。

同校では、2001（平成13）年から、全国でも珍しい「環境コース」を普通科に設置し、屋久島の豊かな自然や環境、その歴史と文化に根ざした教育活動に20年以上取り組んでいます。

本頁では、環境問題やSDGsをテーマに、地域の団体や企業と連携しながら、屋久島の魅力を全国に発信している同校での活動について、1～3年生までの探究学習全体のカリキュラムデザインを担当する渡邊竜聖先生にお話を伺いました。

——屋久島高校が総合的・探究的な学習の時間に行っている活動について教えてください。

本校では、3年間で生徒が2つのテーマに取り組めるようにカリキュラムを組んでいます。

1年次には、屋久島の海や山、まちづくり、伝統文化等のテーマに精通した地域住民の方々に講演をしてもらい、生徒が地元の知識を得たうえで、個人の関心に基づいて探究活動を進めていきます。グループではなく、あえて個人で屋久島のことを掘り下げる探究活動に取り組ませる背景には、高校卒業後に島外へ出る9割以上の生徒に屋久島のことを深く知る機会を持ってもらいたいという願いと、問いを立てて発表するまでの一連のサイクルを個人で回すことで探究の基礎スキルを身につけてほしいという思いがあるからです。生徒の中には、屋久島の道路における課題から問いを立て、仮想トンネルの建設を提案するというユニークな発表もありました。

2年次には、その年に設定されているいくつかのテーマから希望するテーマを選択し、グループまたは個人で探究学習を行います。例えば、「脱炭素」をテーマにしたグループでは、屋久島の発電の99.6%が水力発電で賄われているというエネルギー対策への先進的な事例を学ぶとともに、地域の保育園やサウナ施設とオンラインでの打ち合わせやアンケート調査を行うなどして、協働的に脱炭素に向けた社会参画型のプロジェクトに取り組みました。



保育園の方々と脱炭素プロジェクトに取り組む様子。

3年次は、2年次の活動のまとめをポスターや論文形式で冊子にまとめるなどして、進路活動と両立できる範囲で取り

組みを行うようにしています。

——活動に伴走する中で、意識したことはありますか？

生徒が作成したスライド資料をGoogleサイトで共有することで、活動の進め方がわからない生徒やスライド作成が苦手な生徒が、相互に進捗確認できたり、資料作成のヒントを得たりすることができる環境づくりを心がけました。

また、生徒一人ひとりの活動に対して、教員のみで適切なフィードバックを行うことは難しいので、地域・教育魅力化コーディネーターの力を借りて企業や団体の方々に活動に関わってもらったり、文化祭でポスター展示をして来場された地域住民の方から講評をもらったりするなど、多様な視点からコメントをもらうしくみを作るようにしました。

——活動を通じて、子どもたちに何か変化はありましたか？

探究活動を通じて、SDGsや脱炭素といったテーマに繰り返し触れることで、それらの社会課題が身近な問題であるという実感が湧きやすくなったと思います。また、学校目標でもあるウェルビーイング（身体的、精神的、地域としての健康）の向上に貢献できる人材育成についても、自分自身、自分の身の回りの人たち、地域や社会の3つの視点に置き換えて捉えることができるようになり、大きな課題も「自分事」として考えられるようになったのではないかと思います。

### SDGs スタートブック！

渡邊先生が探究学習で使うなら...

新年度に探究学習を始める際のオリエンテーションで活用したいです。学年の違う生徒たちでグループを作り本書に沿ったグループワークに取り組ませることで、生徒たちが互いの意見を真摯に聴き、多様な考えを尊重し合う対話の土台を築くことが狙いです。多角的な視点を持つことで、自分たちの活動がSDGsのどの目標や社会課題に結びついているかを考える際にも、より深い洞察と納得感を持って探究を進められるようになり、SDGsのどの目標や社会課題に貢献しているかを照らし合わせる時にも役立つと思います。

## ② 東京都大田区立御園中学校 分教室 学びの多様化学校 みらい学園中等部

教えてくれた先生  
古川大輔校長先生



学びの多様化学校とは、文部科学大臣の指定により、不登校の児童や生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成し実施できる学校です。2026年3月現在、全国に59校が指定されています。そのなかのひとつである「みらい学園中等部」では、キャリア教育の充実を軸に、子どもたち一人ひとりに合わせた教育を行っています。御園中学校校長（※取材当時）の古川大輔先生に、同校の取り組みについて、お話をうかがいました。

——みらい学園中等部が総合的・探究的な学習の時間に行っている活動について教えてください。

「おおた教育ビジョン」のなかには「予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成」が掲げられていて、その取り組みのひとつが、STEAM教育を基盤とする「おおたの未来づくり」です。本校では、令和7年度より中学校版「おおたの未来づくり」の研究実践校として、御園中学校・みらい学園中等部ともに、探究学習に取り組んできました。

大田区内の企業や大学から協力をいただき、ワークショップを行ったり、社会課題の解決を考えたりしています。ひとつの学年だけではなく、異学年混合のチームを組んで実施していることも大きな特長です。みらい学園中等部では、「未来の学校を創造するプロジェクト」と題し、「おおたの未来づくり」を実践しています。



設計事務所の方と、未来の学校の姿について話し合う生徒たちの様子。

——「未来の学校を創造するプロジェクト」について詳しくお聞かせください。

現在、御園中学校の分教室として設置されているみらい学園中等部ですが、2031年からは学校型の学びの多様化学校として、同じく区立小学校の分教室である初等部とともに、独立することが決まっています。

「未来の学校を創造するプロジェクト」では、新しい学校の基本構想や基本計画を立てる段階から、子どもたちと設計事務所の方などが一緒になって、学校づくりに取り組んでいます。時間割や、新しい校舎にはこういった空間がほしい

など、子どもたちからアイデアがたくさん出ますので、使えるアイデアは今から取り組んでいこうということで、今の学習環境にも反映させています。

不登校の子どもたちの学びを保証できる場を、子どもたちの意見も交えて作り上げていくことは、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」にもつながることだと思います。

——活動を通じて、子どもたちの姿に変化はありましたか？

子どもたちの自己肯定感や共同エージェンシーが育っていると感じています。共同エージェンシーを含むエージェンシーの育成は、キャリア教育として非常に重要です。たとえば、「おおたの未来づくり」では、学校内外の多くの方が関わっていることで、さまざまな立場の方と話す機会が生まれます。最初は、「〇〇してほしい」といった意見を出していた子どもたちが、「〇〇したい」というように、自主的に行動を起こせるようになっていくんですね。そうすると、周りの子どもたちにも好影響が生じていく、これが共同エージェンシーです。また、みらい学園も含めて御園中学校全体で、教科の学習と探究学習の往還というものを強く意識していて、探究学習が盛んになることで、教科の学習へのモチベーションも上がったと感じています。

### SDGs スタートブック！

古川先生が探究学習で使うなら...

思考ツールとあわせて活用したいです。例えば、スタートブックのp48のピラミッドランキングでは、SDGsの目標が17個あるなかで、あなたなら何を一番上にとってくるかという活動をするだけでも、それぞれの課題意識やイメージしていることが可視化されます。エネルギーという子どももいれば、食が大事だと考える子どももいるでしょう。子どもたちが個人で手を動かしたり、周りの友達と話し合ったりする活動を行うことで、「みんなそれぞれ、自分とは異なった考えを持っている」という気づきを得られるのが、思考ツールの良いところです。そういった活動から、グループ分けをして、さらにチャートやウェビングなどの思考ツールでSDGsや身のまわりの課題について考えると、議論が深まりそうですね。

小学校教員  
からの質問



**Q** 小学校低学年でSDGsスタートブックやEduTown SDGsを利用する場合、それらの内容を、どのようにかみ砕いて教えていくとよいでしょうか。

**A** 発達段階を考えると、低学年がSDGsについて理解して、何かに取り組むのはハードルが高いと思います。学習活動は身近な問題に気づかせることが最初です。次に、その気づいたことがSDGsのどの目標に関係するのか、何かできることはあるのか、一緒に考えてみましょう。これは低学年に限らず、小学生のどの学年でも使える流れでしょう。これを学級みんなでやることで、学び方の基礎が身につきます。学年が上がるにつれて、グループや個人での取り組みに移行できるようになるので、まずはその下地を作ると考えてみてください。

**Q** 17の目標全てを授業の中で取り上げたいという思いはありますが、時数の確保が難しいです。日頃の学びでどのように取り入れていけばよいでしょうか。

**A** 全ての目標を扱うには時間がかかりが必要です。気になる目標を3つ程度選択して、スタートブックの「調べてみよう・考えてみよう」を参考に、深く調べてまとめて、発表会で共有するようにしましょう。このことで、関心のある目標の理解が深まるとともに、他の目標への関心も持たせることができると思います。

**Q** 生徒が自分ごととして実践し、達成感を感じられるような身近なSDGsの取り組みの例を示したいです。どのような取り組みから始めればよいのか、教えてください。

**Q**

生徒が自分ごととして実践し、達成感を感じられるような身近なSDGsの取り組みの例を示したいです。どのような取り組みから始めればよいのか、教えてください。

中学校教員  
からの質問



**A**

身近な活動の発見から始めるのが良いでしょう。例えば「私たちの町・市・区などで実践されているSDGsはなんだろう」と投げかけ、市内各所や市役所などで調査活動をするするとSDGsが身近になります。活動結果からSDGsの目標の何番に関係するか、他にも関係する目標はないかと順次広げていくと、地に足のついた活動になります。

**Q**

SDGsの学習に取り組んでいますが、調べ学習に終始してしまっているのではないかと不安です。どのような言葉かけをすることで、生徒のこれからの生きるような学びの機会にできるでしょうか。

**A**

探究学習の1つと考えると、調べ学習はプレ探究です。基礎を固めてから、各自の興味関心に合わせて校外へ調査に行ったり、調べたことをもとにSDGsアクションをしてまとめたりするなど、課題解決のアクションに取り組ませることが、真の持続可能な社会をつくる学び（ESD）になります。社会の中で活動することで、日頃の教室での学習とは違ったダイナミックさに気づくことでしょう。スタートブックのp.52-53にアクション事例を載せてあるので参考にしてみてください。

**ESD**

## お悩み相談室

本頁では、SDGsスタートブックを活用して下さっている、全国の小・中学校、高等学校の先生方からお寄せいただいたESDに関するお悩みについて、SDGsスタートブック/指導者用資料の監修者である棚橋乾先生に、明日から使える改善のためのアイデアや実践のためのヒントをお答えいただきました。

高等学校教員  
からの質問



**Q**

教科横断的に学びに取り組めるとより学習が深まると思うのですが、自分の担当教科だけだと時間が限られてしまいます。学校全体で取り組むには、どのような働きかけが有効でしょうか。

**A**

学校全体で共通する校内研究のテーマにSDGsを位置付けて、教科でできることや総合的な探究の時間でどのように取り組ませるかを協議しましょう。このことがカリキュラムマネジメントを働かせるきっかけになると思います。研究部が生徒の変容や取り組みを全教員に伝えて、実践イメージを高めることも必要でしょう。加えて、最も大切なことの1つは、学校長の学校経営方針に位置付けてもらうことです。

# 東京書籍の教科専門サイトのご紹介

教科の学習×SDGsの学びの実践事例を掲載しています！

東京書籍の国語情報サイト

こくごスタジオ



こくごスタジオ × EduTown SDGs

「マイノリティマップ」をつくってSDGsの目標を身近なものとして考えよう



「EduTown SDGs」の「目標10」の動画を視聴している様子

②自分学習をする

はるとさんの予想の正誤に取組むか、みさきさんの予想の正誤を考えるかの順序等については、子どもに委ねます。自分が「確かめたい」と思った予想から取組むことで、データをもとに考えようとする姿勢や、自分の判断をつくらうとする主体的な学びがより促されるからです。ここでは、二人の予想の正誤を解することよりも、どちらか一方の予想について根拠をもって解答することを重視します。



どちらの予想の正誤に取組むかを子どもたちに確認する様子

算数・数学で考えよう！



math がんばる先生のための算数・数学ポータルサイト  
connect

# 教員向け情報配信サイト「東書Eネット」のご紹介

入会金、会費、情報利用料等、一切無料です！



こちらからアクセス！

○「東書Eネット」は小学校・中学校・高等学校・大学の先生方を対象とした会員制サイトです。

○年間指導計画作成のための資料や、実践事例、指導案、授業プリント、写真・動画資料など、約7万件の資料がデータベース化されています。

出張授業の情報も紹介しています！

出張授業のご紹介

あの企業が教室に!?

本サイトでは、企業が提供する出張授業プログラムをご紹介します。実際の企業の方と対面することで、習得材料を通して学んだ企業が社会での実践とつながり、学びへのさらなる意欲を引き出します。

SEKISUI 積水化学工業株式会社 SEKISUI SDGs Academy 未来Challenge 自分の目標のひら-

出張授業の概要

次世代の課題解決に必要な力を育むことを目的に、SDGsをテーマにしたオンライン授業です。積水化学のしつくりの視点を活かして、製品を通じた社会課題解決への貢献を伝えま-

詳細はこちら

出張授業の概要や、対象学年、用意するものや関連科目などを詳しくご紹介しています！

# EduTown ファミリーのご紹介

EduTown Family

東京書籍が運営する教育総合サイト「EduTown」では、いま求められている教育テーマを、教科横断的な視点で取り扱っています。ここでは、「キャリア教育」「金融教育」の教材をご紹介します。



全国1万の学校で180万人が利用する

キャリア教育・職業調べサイト

アクセスはこちらから  
<https://ashitane.edutown.jp/>



EduTown あしたね

テーマ別の  
特集ページも  
充実

豊富な  
「仕事人」  
記事

直感的に  
職業や記事を  
探せる

「EduTownあしたね」は全国の小・中・高校の授業で利用されている国内最大級のキャリア教育・職業調べの学習サイトです。約400職種、600人以上の豊富なインタビュー記事を掲載しています。記事にはルビを振り、小学校高学年から読めるわかりやすい内容にしています。

- 掲載職業数約400
- 約600人の豊富なインタビュー記事
- 読み仮名付き
- 授業ワークシートのお届け  
(調べ学習に対応したワークシートを発送)



東京書籍が制作する金融経済教育学習サイト「EduTownフトコロジ」オープン！

EduTown

こちらのQRコードからサイトにアクセスできます！

フトコロジ



ゲームを楽しみながらお金の使う、借りる、貯める・ふやす、備える、稼ぐを学べます！

ご利用シーンにあわせて以下の2モードをご用意！

キャラクターのお世話を通してお金のやりくりを学べる

あそぶ

モード

授業で使えるミニゲーム+指導案・ワークシートがセットの

まなぶ

モード

ご利用はすべて無料です！

EduTown「あしたね」「フトコロジ」に関するお問い合わせは下記まで

ユーザーサポート

0120-29-3363

お問い合わせフォーム

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/customer/>

## **ESDの手引き** ～SDGsスタートブックを活用した指導実践資料～

2026年4月28日 初版発行

監修・執筆 棚橋 乾（全国小中学校環境教育研究会顧問）

デザイン 長谷川 理

制作・発行 東京書籍株式会社

サポートダイヤル：☎ 0120-29-3363

お問い合わせフォーム：<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/customer/privacy/edutown/199>